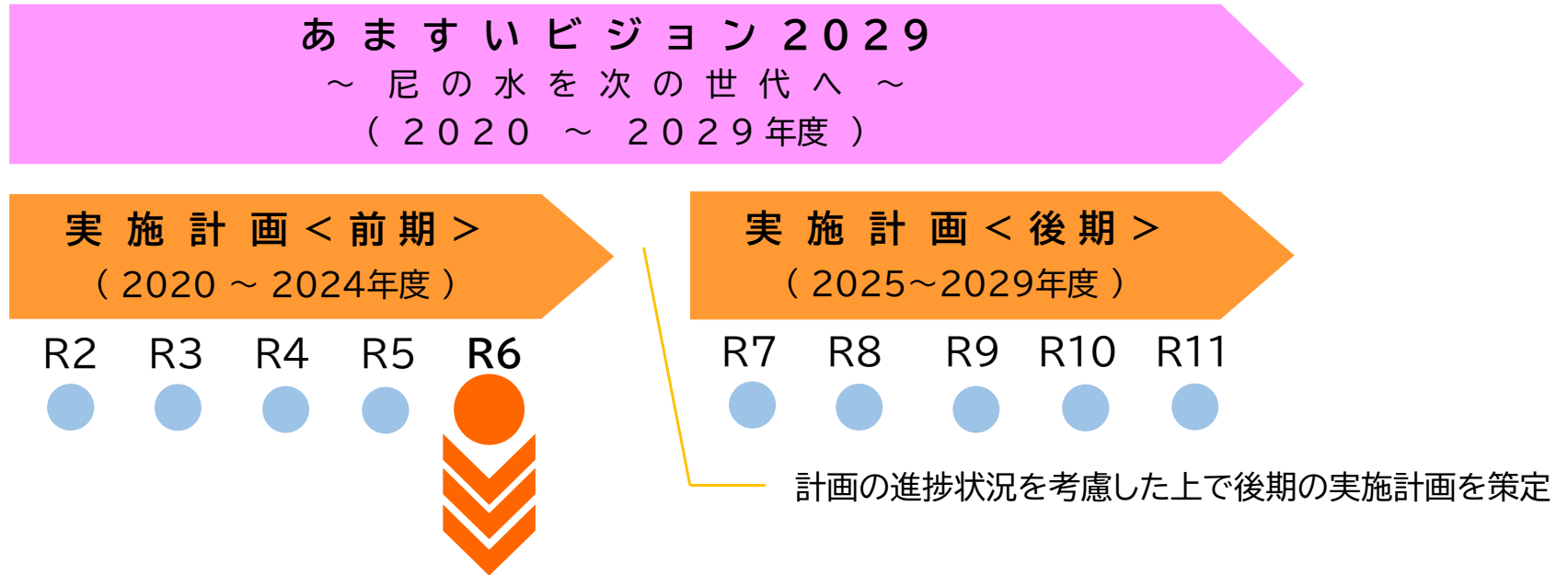


# 1. 令和6年度の主な取組

40年先の将来像を見据えた「あますいビジョン2029」(令和2～11年度)に基づき、将来においても安定的に事業を継続していくための取組を推進



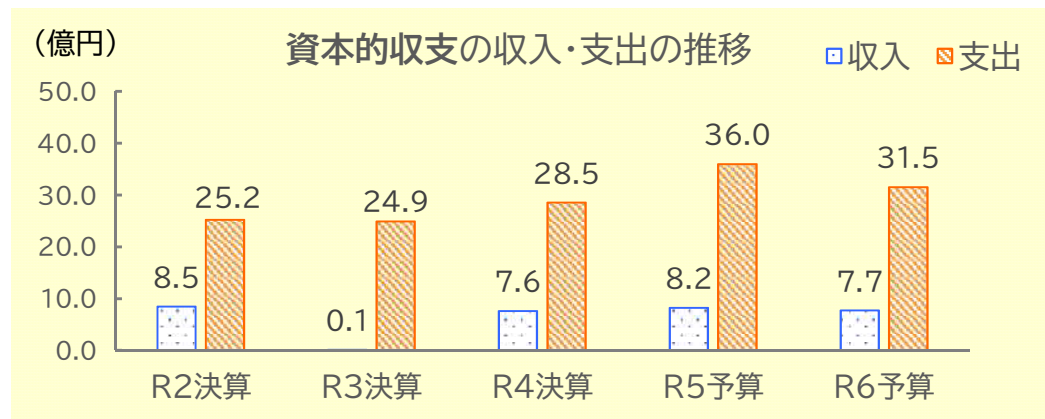
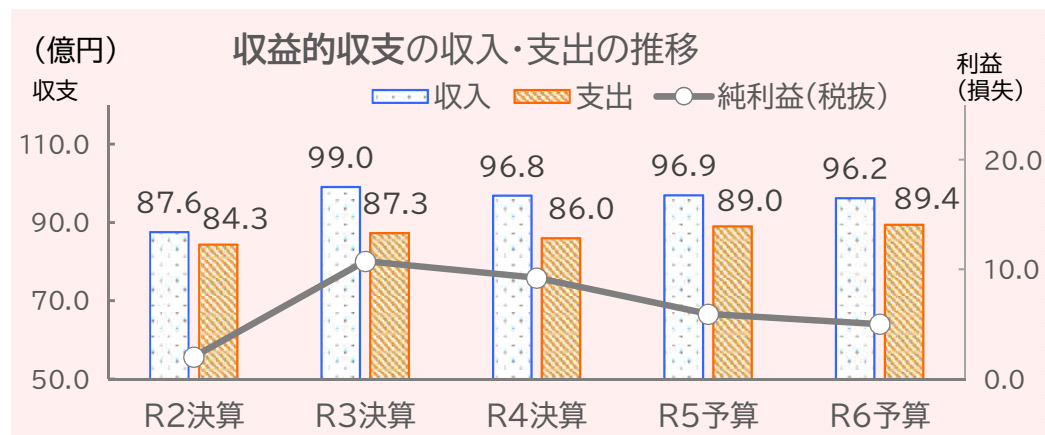
- ◆ 令和6年度（ビジョン前期最終年度）は、引き続き老朽化した配水管の計画的更新及び耐震化、配水ブロック化を推進する
- ◆ 避難所等への応急給水栓の設置や地域と連携した訓練などの取組を重点化するとともに、さらなる水質管理の徹底を推進する
- ◆ ICT等を活用したお客さまサービスの向上と業務の効率化をめざした取組を検討、実施する
- ◆ 後期実施計画に向けて、施設整備計画を見直すとともに、神崎浄水場の再整備事業については、官民連携（PPP/PFI）手法の導入可能性調査を踏まえ、事業手法及び事業費を決定する

## 2. 収益的収支と資本的収支(フローの視点)

(税込、単位:百万円)

区分		令和6年度	令和5年度	増減額	増減率	
収益的収支	経常損益	収入	9,540	9,694	① △ 154	△ 1.6%
		支出	8,936	8,893	② 43	0.5%
		差引	604	801	△ 197	
	特別損益	収入	82	0	③ 82	-
		支出	5	5	0	0.0%
		差引	77	△ 5	82	
合計 (当年度純利益)		④ (495)	(592)	(△ 97)		
資本的収支	収入	766	822	⑤ △ 56	△ 6.8%	
	支出	3,147	3,596	⑥ △ 449	△ 12.5%	
	差引(A)	△ 2,381	△ 2,774	393		
補てん財源(B)		2,155	2,215	△ 60	△ 2.7%	
資金収支(A+B)		△ 226	△ 559	⑦ 333		

- 公営企業会計では、**収益的収支**と**資本的収支**に分けて経理
  - ・ **収益的収支**：日々の営業活動などに必要な経費
  - ・ **資本的収支**：施設の改良などに必要な経費
- 建設改良費や企業債の返済によって生じる資本的収支の不足額に対する**補てん財源**
  - ・ 収益的収支で生じる純利益
  - ・ 収益的収支の支出に含まれるが、実際は現金支出を伴わない減価償却費等



### (前年度との比較等)

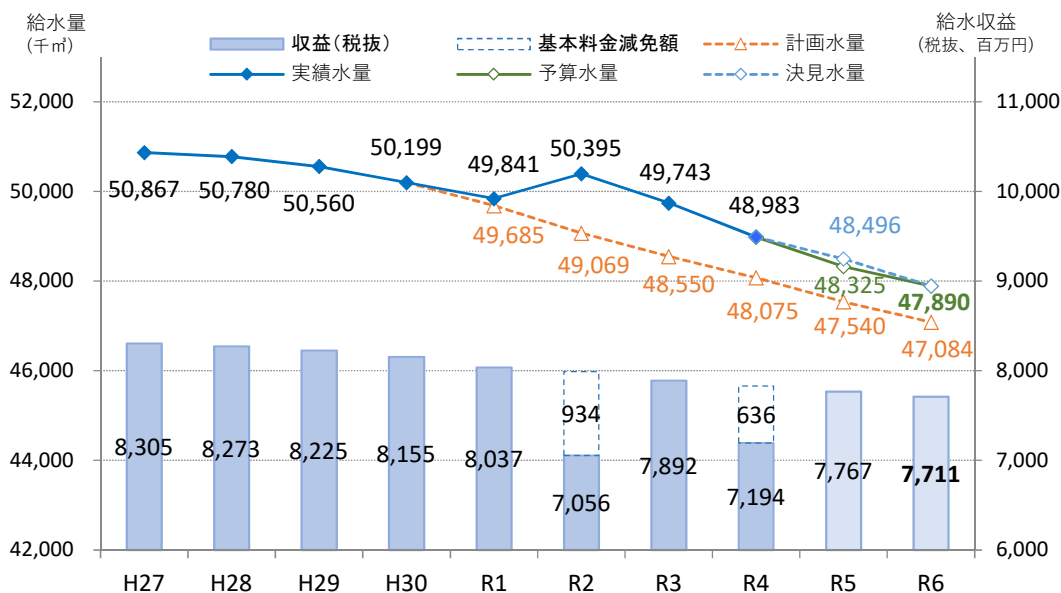
- ◆ 収益的収支の収入全体は7千万円減少 (①、③)、支出全体は4千万円増加 (②)、純利益は1億円減少して5億円 (④) の見込み
- ◆ 資本的収支の収入は6千万円減少 (⑤)、支出は4億5千万円減少 (⑥) の見込み
- ◆ 資本的収支の不足額から補てん財源を差し引く資金収支は、3億3千万円の増加 (⑦)

# 収益的収支(1/2)

## 収益的収入

(税込、単位:千円)

款 性質	令和6年度	令和5年度	増減額	主な増減理由
水道事業収益	9,621,990	9,694,211	△ 72,221	
經常収益	9,540,045	9,694,210	△ 154,165	
給水収益	8,482,020	8,543,648	△ 61,628	給水量△0.9%
長期前受金戻入	133,659	107,255	26,404	
その他収益	924,366	1,043,307	△ 118,941	分担金(大型マンション)の減△62,140
特別利益	81,945	1	81,944	阪神水道企業団からの返還金



区 分	令和6年度	令和5年度	増減	増減率
給 水 戸 数	<b>251,200 戸</b>	250,400 戸	800 戸	0.3%
給水量 ※ 年間総量	<b>47,890,000 m³</b>	48,325,000 m³	△ 435,000 m³	△ 0.9%

※ 給水量 = お客さまが実際に使用する水の量

### (前年度との比較)

- ◆ 給水量は前年度から0.9%減少し、給水収益は6千万円の減
- ◆ 大型マンション新築件数の減少に伴う分担金の減少などにより、その他収益は1億2千万円の減
- ◆ 明石市加入に伴う阪神水道企業団からの返還金により、特別利益が8千万円増加するものの、収入全体では7千万円の減

## 収益的収支(2/2)

### 収益的支出

(税込、単位:千円)

款 性質	令和6年度	令和5年度	増減額	主な増減理由
水道事業費用	8,941,030	8,897,876	43,154	
經常費用	8,936,030	8,892,842	43,188	
人件費	869,204	948,343	△ 79,139	職員数△6人(102人←108人)
給料・手当等	834,289	860,661	△ 26,372	
退職給付費	34,915	87,682	△ 52,767	
動力費	140,441	167,454	△ 27,013	燃料調整単価の減
薬品費	35,798	26,350	9,448	購入量の増
受水費	3,937,573	3,882,641	54,932	阪神水道企業団の単価の増
減価償却費	1,586,716	1,485,300	101,416	水道業務システム更新による増
資産減耗費	28,842	67,986	△ 39,144	撤去工事の減
支払利息	166,782	166,869	△ 87	
物件費	2,170,674	2,147,899	22,775	修繕費、委託料等の増
特別損失	5,000	5,034	△ 34	

### (前年度との比較)

- ◆ 人件費や資産減耗費は減少するものの、阪神水道企業団の単価の増による受水費の増加や、令和5年度に取得した業務システムの償却開始による減価償却費の増加により、支出全体では4千万円の増

## 資本的収支

### 資本的収入

(税込、単位:千円)

款 項 目	令和6年度	令和5年度	増減額	主な増減理由
水道事業資本的収入	766,573	822,104	△ 55,531	
企業債	700,000	600,000	100,000	
負担金	66,572	221,923	△ 155,351	下水負担金(水道業務システム分)の減
固定資産売却代	1	181	△ 180	

### 資本的支出

(税込、単位:千円)

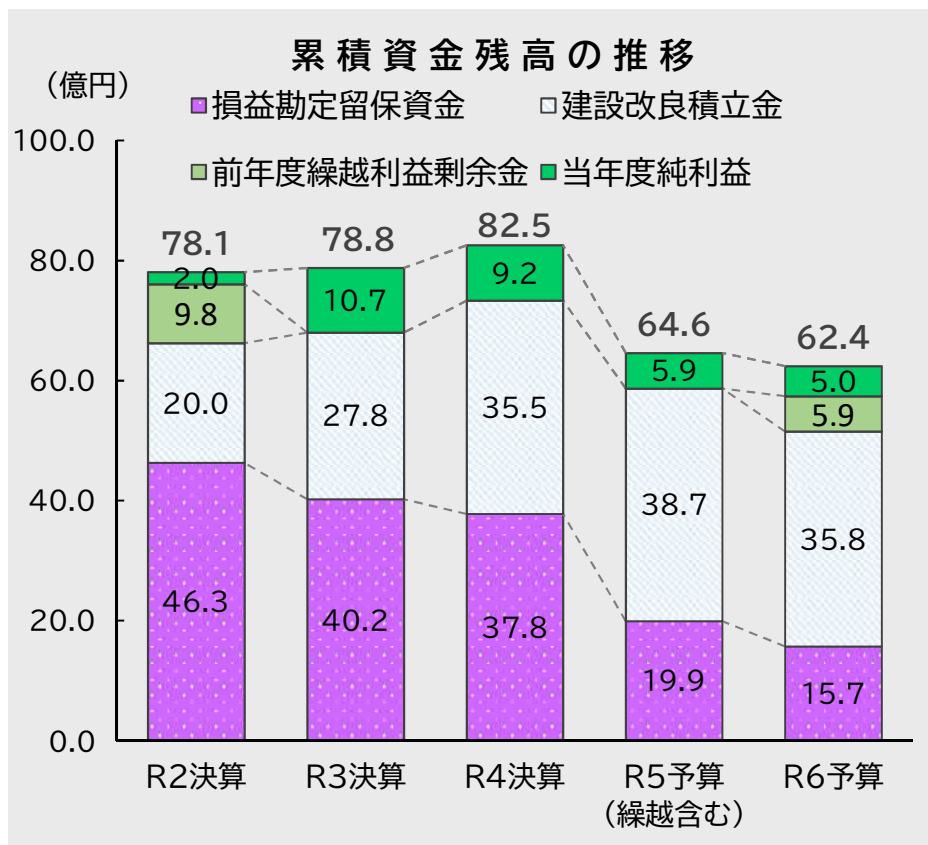
款 項 目	令和6年度	令和5年度	増減額	主な増減理由
水道事業資本的支出	3,147,376	3,596,014	△ 448,638	
人件費	144,947	138,776	6,171	
建設改良費	2,055,277	2,491,143	△ 435,866	水道業務システムの減△476,160
企業債償還金	944,152	963,095	△ 18,943	
予備費	3,000	3,000	-	

### (前年度との比較)

- ◆ 資本的収入では、前年度にあった下水道事業会計からの負担金（水道業務システム分）の皆減等により、6千万円の減
- ◆ 資本的支出では、水道業務システムの更新費用の減等により、4億5千万円の減

### 3. 累積資金残高と企業債(ストックの視点)

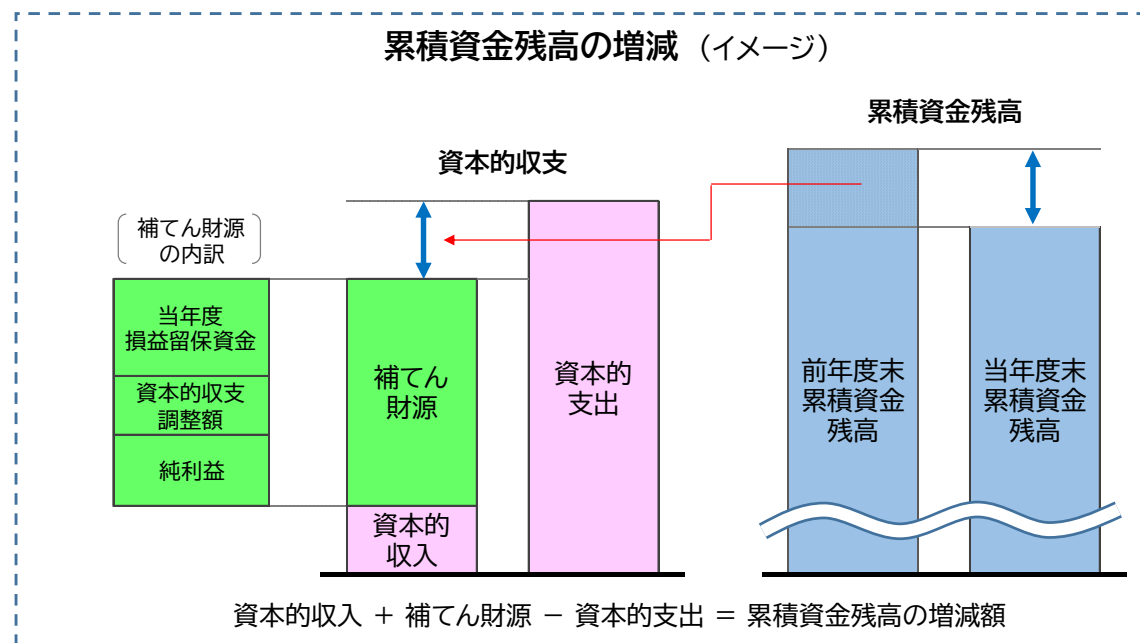
#### 累積資金残高



#### 資金収支の推移

(単位:百万円)

	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算 (繰越含む)	R6予算
資本的収支の差(A)	△ 1,669	△ 2,482	△ 2,096	△ 4,201	△ 2,381
補てん財源(B)	1,675	2,551	2,474	2,409	2,155
資金収支(A+B)	5	69	378	△ 1,792	△ 226

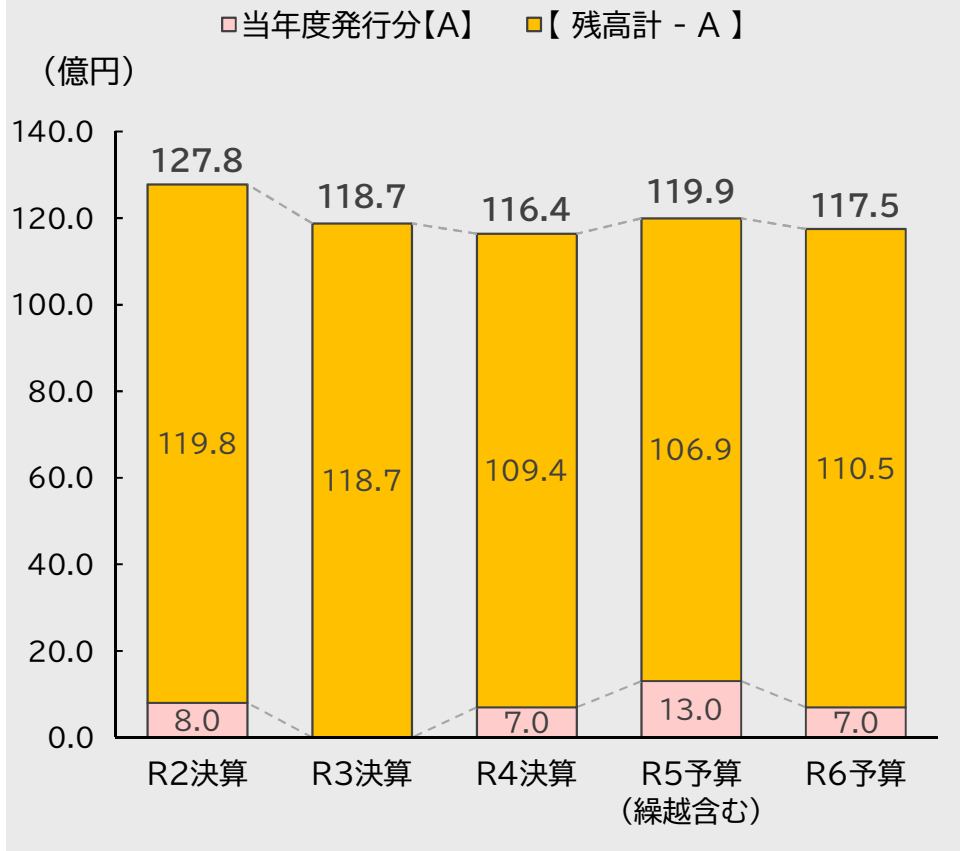


#### (累積資金残高の推移)

- ◆ 令和6年度末の累積資金残高は、令和5年度末と比較して2億2千万円減少し、62億4千万円の見込み

# 企業債

## 企業債残高の推移

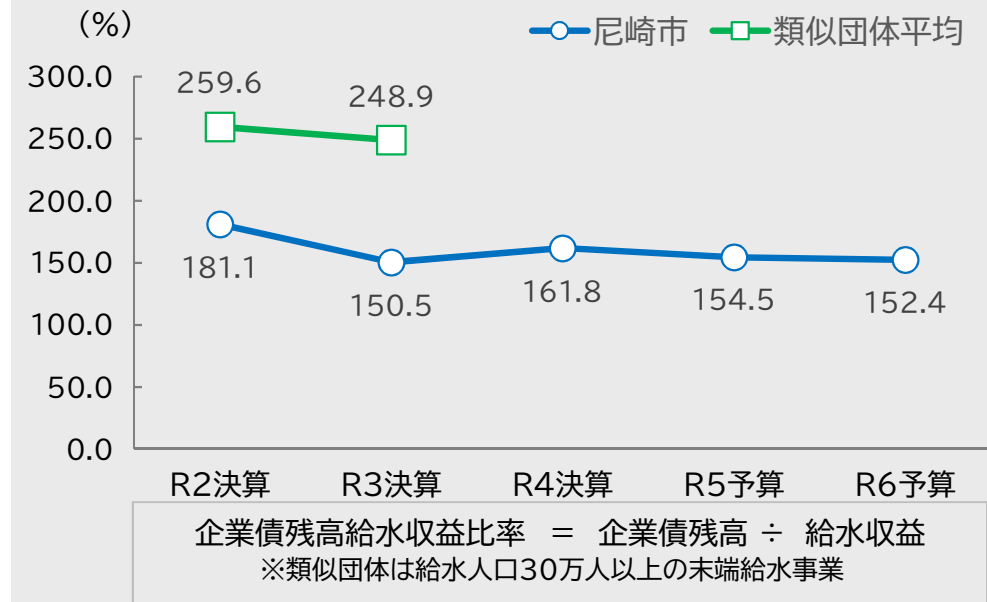


### 企業債の発行・償還・残高の増減

(単位:百万円)

	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算	R6予算
発行額(A)	800	0	700	1,300	700
償還額(B)	848	905	936	940	944
残高の増減(A - B)	△ 48	△ 905	△ 236	360	△ 244

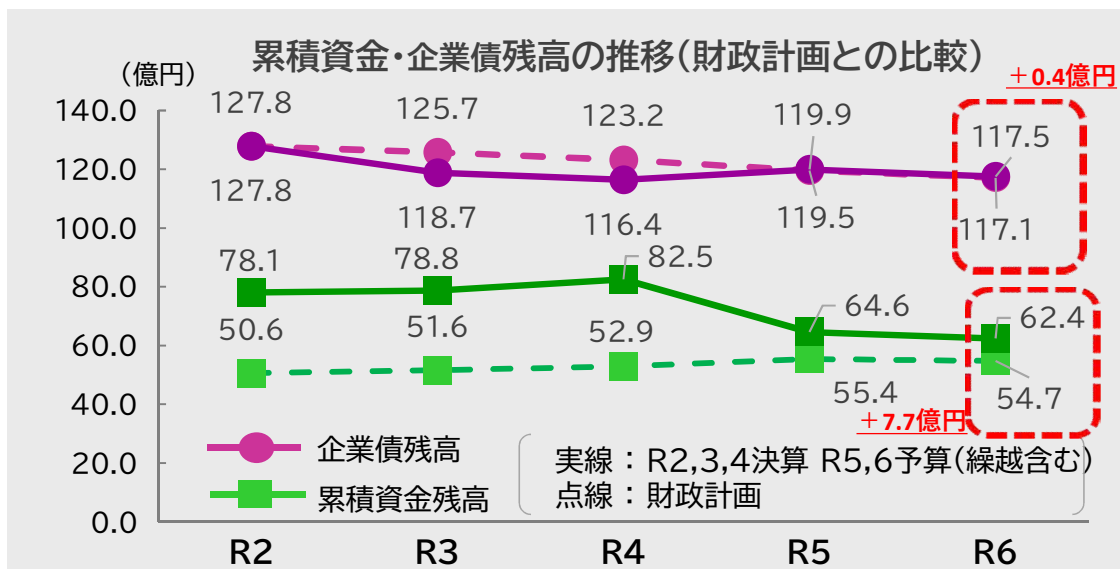
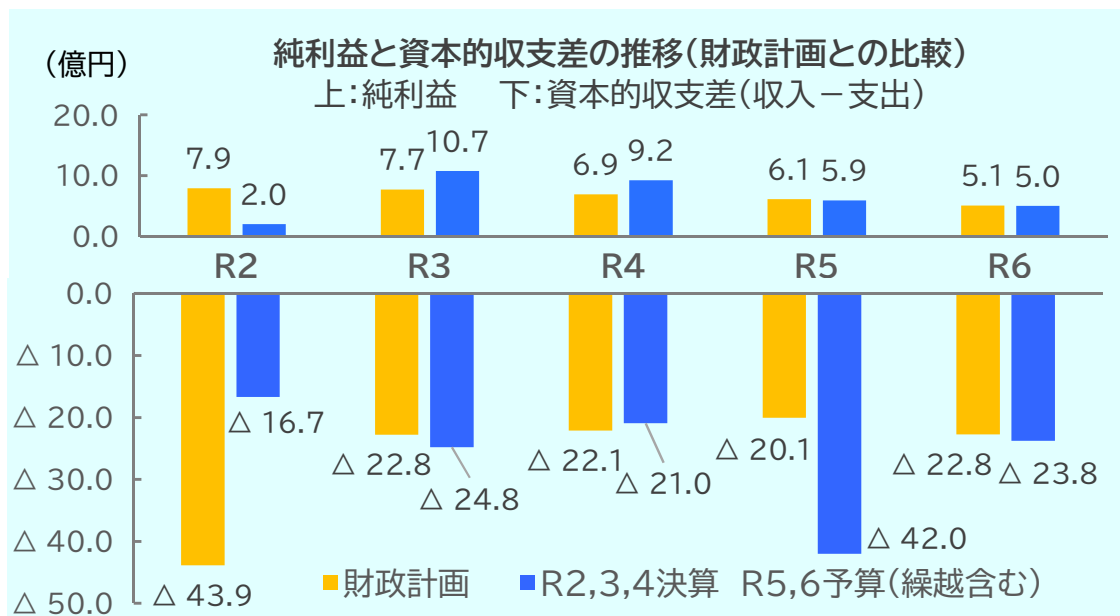
## 企業債残高対給水収益比率の推移



### (企業債の推移等)

- ◆ 令和4年度までの決算ベースでの企業債は減少傾向
- ◆ 他の類似団体と給水収益との比率で比較すると、企業債残高は良好な状況 (令和3年度までの決算ベース)
- ◆ 令和6年度予算は、7億円の発行と9億4千万円の償還を予定し、令和5年度予算と比べ、2億4千万円の減少の見込み

## 4. 財政計画との比較



### 令和6年度 収益的収支

(税抜、単位:百万円)

	財政計画(A)	予算(B)	差引(B-A)
収益的収入	8,551	8,772	221
収益的支出	8,043	8,277	234
純利益	508	495	△ 13

### 令和6年度 資本的収支

(税込、単位:百万円)

	財政計画(A)	予算(B)	差引(B-A)
資本的収入	947	766	△ 181
資本的支出	3,225	3,147	△ 78
収支差	△ 2,278	△ 2,381	△ 103
補てん財源	2,207	2,155	△ 52
資金収支	△ 71	△ 226	△ 155

### (財政計画との比較)

- ◆ 令和6年度予算は、財政計画と比較して、純利益はほぼ計画通り、資金収支は1億6千万円の減少
- ◆ 企業債残高は財政計画とほぼ同額、累積資金残高は計画と比べて7億7千万円増加